

平成28年度第2回京都市青少年活動推進協議会

1 日 時 平成29年2月6日（月）午前9時30分～午前11時35分

2 場 所 職員会館かもがわ

3 出席者（敬称略）

山本 智也（会長）	大阪成蹊大学教育学部教授
安保 千秋（副会長）	公益財団法人京都市ユースサービス協会理事長
雨宮 万里子	京都市少年補導委員会理事
井上 真二	日本労働組合総連合会京都府連合会青年委員会委員長
大東 貢生	佛教大学社会学部准教授
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表
川端 英樹	京都保護観察所長
木村 友香理	公募青少年委員
佐々木 佳代	同志社女子大学名誉教授
澤井 早和乃	京都市保護司会連絡協議会会長
關 つぐみ	公益財団法人京都YMCA本部ユース・国際担当
長者 美里	京都光華中学校・高等学校校長，光華小学校校長
中川 多鶴子	京都府府民生活部青少年課長
舟木 健広	京都府警察本部少年課少年サポートセンター所長

4 会議の概要

(1) 会長及び副会長の選出について

(2) 議題

ア 子ども若者はぐくみ局の創設について

イ 京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画について

ウ その他

5 会議で出された意見等（要旨）

(1) 会長及び副会長の選出

会長 山本 智也 委員

副会長 安保 千秋 委員

(2) 子ども若者はぐくみ局の創設について

（意見・質問等なし）

(3) 京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画について

- ・ 支援の場を設けても、支援が必要な方に届いていないという状況がある。
- ・ 貧困の問題に関わる人に集ってもらい、施策についての意見を聞き、それを踏まえて青少協で議論するといった政治的包摂の仕組みを組み込んだ計画にするべきではないか。
- ・ 様々な団体や関係機関にヒアリングをする中、京都市の施策に対する評価を聞いたのであれば教えてほしい。
- ・ 当事者の保護者が読むと責められているように感じるのではないか。
- ・ 親が課題だという受け止めをする方がいるのではないかという懸念については、今後、支援をする中でうまくいった事例も併せて記載するといいいのではないか。

- ・ 全国平均よりも生活保護世帯，就学援助が必要な世帯が多い。各自治体で取り組んでいる中，京都市として特徴があれば教えてほしい。
- ・ 青少年活動センターにおける居場所づくり事業などの参加者，センターに来ている方の声を聞くことが大事だと思う。特に，中高生から大学生までは変化が多い年代である。センターを使用しているユース世代の声を定期的に聞く仕組みがあると，より充実した施策につながると思う。
- ・ 食に関する取組については，山科青少年活動センター以外のセンターでも実施する予定か。また，地域での取組を考えているか。
⇒（事務局からの回答）山科青少年活動センター以外での実施予定は現時点ではないが，民間で行っている子ども食堂については，財政的な支援を行うための予算化を検討している。
- ・ 放課後や学童クラブ終了後の居場所がないという課題が挙げられているが，非行関係を含め，支援が少ない。支援の場でも，情報が届いていないという声を聞く。情報を届けるためにどういったことをしているか教えてほしい。
⇒（事務局からの回答）支援の施策はあるが，情報が届いていないというのは，行政的な課題であり，各所属で改善を図っていく必要があると考えている。プランについては，3年後に改定する予定であるため，今後の調査を含め，充実を図ってまいりたい。
- ・ 青少年施策においては，情報提供をどのようにしていくか考えないといけない課題である。若者施策で全戸訪問がなじむかわからないが，今までの周知の仕方とは違う観点が必要になるのではないか。
- ・ 行政機関としては，支援策を設けても情報を届ける場所の難しさを感じている。そっとしておいてほしいと思っておられる方に，どうアプローチするか。やはり，行政だけでは難しく，地域の方々の御協力が必要になる。来年度，ひきこもり対策を充実させるが，地域の方の御協力を得たり，学校との連携を図ったりしながら実施していきたい。良いアイデアなどがあればいただきたい。
- ・ 高校生の問題を抱える家庭と教育の問題について研究しているが，小学校・中学校での支援と高校での支援に断絶がある。府と市の教育委員会の連携ができていないように見える。この計画の中でも，どのような連携をして推進するのか検討していただきたい。
⇒（事務局からの回答）必要な情報は，府と市で情報共有しているが，この計画についての調整状況は把握していない。今後のことを含め，連携を図るよう教育委員会に伝える。
- ・ 現場では，情報の入手などのハードルが高く，スムーズに行かない。いろいろな施策があるのに，届いていないというのが実感としてある。
- ・ 高校は公立も私立もあるので，教育委員会だけでなく知事部局，市長部局も連携をとってほしい。
- ・ このプランだけでなく，子どもはぐくみ局の件でも，高校生年代との接触が出てこない。はぐくみ局にいても，私学に通う子どもをどうするか，青少協でも見ていかないといけない。高校生年代，大学生年代に対する施策は，ひきこもりやニートの入口にもなるので，貧困対策だけでなく，総合的に考える際に必要な視点である。

(4) その他

青少年の自立支援の強化に向けた条例の検討について

- ・ ユースアクションプラン策定時の若者の自立支援や課題を抱えた青少年のことなど，青少協で議論してきたことが踏まえられた条例，アウトリーチの根拠になる等，具体的な支援の動きの基になればいいと思う。
- ・ 部会を設置するなどして，議論を進めていきたい。